



朝五中だより

〒 351-0031 朝霞市宮戸 1580 HP <http://www.asakadai5chu.city-asaka.ed.jp>
Tel 048 (471) 2236 FAX 048 (476) 1328 E-mail Schuu@asaka-c.ed.jp

平成 29 年 9 月 1 日 発行
朝霞市立朝霞第五中学校

実りの秋に向けて着実な一步の積み重ねを

校長 土橋 徹嘉

例年になく雨の多い八月となりましたが、夏休み期間中は、県大会をはじめとする部活動での活動や彩夏祭での踊り披露に生徒は頑張っており取り組んでいました。生徒たちは充実した日々を過ごし、一段と逞しくなって学校に戻ってきました。これからの時季は、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、・・・と、何をするにも快適な季節となります。また、今月末からは、2・1年生が主体となった新人体育大会の地区大会が始まります。一夏の成果を発揮してくれるものと、期待しています。



さて、この夏の高校野球はご存じの通り、花咲徳栄高校が広陵高校（広島）を14対4で破り、埼玉県勢として夏の甲子園で初優勝を飾りました。甲子園の戦い方からは、強力な打線で得点を積み重ねて相手を圧倒するというのが大方の印象でした。「我慢してやってきたことが結果につながった」と話す千丸主将の誇らしげな表情が印象に残りましたが、私が特に心引かれたのが、岩井監督の「辛い道のりを一つ一つ、一步一步よく駆け上がってくれた。」そして、「日本一ということでは富士山と一緒になので一步一步登っていこう。一瞬一瞬、一球一球が一步一步と同じと思ってやっていこう。数多くのプレッシャーの中でブレないように自分たちの戦い方をやり通そう。」と選手に伝えていたとインタビューに答えていたことです。

花咲徳栄高校の野球信条は1点を守り1点を粘り取る緻密な野球であったといえます。しかし、これまでも甲子園に出場していましたが勝てない試合が続く、「全国で勝つためには一発で流れが変えられる破壊力が必要」と明確な課題を見い出します。そして、チーム一丸となってその解決に向けて着実に取り組んできたといえます。目的や目標だけを掲げては決して成果は上げられません。やはり、明確な課題を掲げて、やるべきことをコツコツと積み重ねていくことで、ようやく頂上に達し、実を結ぶことにつながったのだと思います。花咲徳栄高校野球部は偉業を成し遂げるのに相応しいチームであったといえます。

本校ですが、日々の授業の充実とともに、部活動などにおいても技術やチーム力の向上、さらには人間形成にも重点を置いて一つ一つの指導を進めています。そして、誠実に頑張っており取り組む、挨拶ができるなどの指導の成果が現れ、本校のよき伝統の一つとなっています。2学期は授業日数が最も多く学校行事をはじめとする教育活動が多彩に展開されます。また、1学期以降積み上げてきた成果が現れる時期でもあります。確かな学力、逞しい体力、豊かな人間性など引き続き着実な一步が歩めるよう、教職員一同、指導に当たりたいと考えておりますので、今後ともよろしくご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

